

グローバルヘルスに対応する保健所機能と課題

災害時の外国人対応について支援～共助へ



枚方市保健所長
白井 千香

< はじめに >

災害の多い日本で暮らす外国人 / 日本に旅行する外国人が増加している。災害時にはどうすればよいのか。

「災害時、外国人は弱者」なのか。

外国人の安全を守っていくことは急務である。

犠牲者が多い理由

- 東日本大震災：36人の外国人が犠牲になった。
- 阪神淡路大震災：同じ人口あたりの外国人の犠牲者の割合が日本人の2倍

< 災害時に外国人は、弱い立場か？ / 人権の問題 >

- 日本の事情に詳しくない外国人は情報から孤立する。
- 「高台」という日本語が理解できず、津波から逃げるのに支障あり。
- 日常会話は支障なくても、非常時の言葉や緊急時の行動には慣れていない。
- 帰宅できない家族と連絡がとれず、不安や怖さで避難所に行けず、自宅から出られない。 ...etc .

災害対応時の困難感

言葉の壁

そもそも職員が外国語がわからないので、避難の必要などが通じるか...

日本で使う災害時の言葉になじみがない外国人・旅行者にどう伝えるか

避難所に行ってもいいの？
地域で仲間に入れてくれるかな？

制度の壁

災害の備え（食料や日用品）はあるのか、日本の訓練などに参加したことあるのか

平時に外国人（母国）のコミュニティがあれば、頼れるのでは...

文化の壁



大阪北部地震のとき

枚方市内の避難所では・・・

余震を怖がって、
避難しているようだが、
長期化したらどうしよう・・・



- 避難所に外国人が数人きていた。
- 家族or友人？
- 自宅（アパート）に帰るのが怖い

日本語は少し出来た。
留学生のようで、保健師の話は分かったよう。

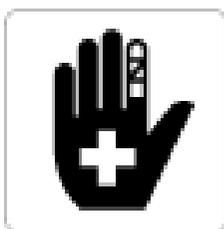
災害時の保健活動推進マニュアルから

災害時に配慮の必要な対象として、外国人について、注意すべきこと

- 易しいことばで言い換える
- 絵や写真・ピクトグラムを活用
- ひとつの文章に複数の情報を入れない
- 文化や風習、宗教上の理由を配慮
(食事や避難所で暮らす上での対応)

ピクトグラム

国内において「標準案内用図記号」として
125項目が策定、そのうち104項目がJIS化(案内用図記号 JIS Z8210)



救護所

First Aid

救护所

救護所

의무실



広域避難場所

Evacuation Area

广域避难所

廣域避難所

대피소



飲料水

Drinking Water

饮品

飲品

마시는 물



くず入れ

Trash box

垃圾箱

垃圾箱

휴지통

交通エコロジー・モビリティ財団が策定、
色彩や利用上の注意については、ホーム
ページを参照

(<http://www.ecomo.or.jp/>)

コミュニケーション ツール

- VoiceTra 多言語音声翻訳アプリ
日本語入力or日本語で話しかけると外国語に翻訳してくれる。 31言語に対応可能
(うち音声入力18言語・音声出力16言語)
- 災害時用支援シート
外国語指さし会話集・支援用指さしシート
- #となりの外国人(ツイッター)
or #Tonari NoGai kokuj i n

外国語 支援ツールの例(VoiceTra)

【実験】 翻訳機能の部分は国の研究機関が開発しており、アプリが無料で提供されている。



< 翻訳機能 > 英語の他、約30の言語で対応

- ・ 日本語の入力 外国語へ翻訳
- ・ 外国語の入力 日本語へ翻訳

緊急時は誤訳が無いようにチェック機能有
(逆翻訳結果を確認する)

インターネット環境が必須。
平易な言葉で大事な情報は短く伝える。
日本語ができる外国人に通訳を頼む。
被災者側の声を拾ってもらおう。
避難所（体育館など公共の場）でのルールの周知。宗教や食事の習慣など文化の違いも摩擦の原因とならないように。

< 人間として互いの情報が伝わるように！ >

災害時外国人 支援ボランティア (サポーター)

- 自治体の国際交流協会などで登録、養成等をしている。
- 災害時に外国人に対して、相談に乗る、情報提供（通訳や翻訳）する等、支援活動を行うことができるひと。
- 災害発生時に「災害時外国人（多文化）支援センター」を立ち上げた時に、スタッフになれるひと。
- 養成講座を受ける、避難訓練を一緒に行う等

外国人を交えた災害訓練

- 日本在住外国人のため
- 外国人が中心に企画・運営
- 日本人と外国人をつなぐ目的
- 顔の見える関係づくり
- 通訳ボランティアも参加
- 応急手当（A E D や心肺蘇生法）
- 非常食試食
- 防災を通じて、多文化共生の社会を作る

日本語が
わからなくても、
やれることを
やればよい。
友達をつくろう！

外国人との共助にむけて

参照：nippon.com2018.12.20片岡博美による記事から抜粋

- 1 . 外国人を交えた地域防災の意義
- 2 . 外国人住民を交えた地域防災を考える上で大切なこと
- 3 . 「外国人を交えた地域防災」の主人公は「地域」

外国人は「災害弱者」ではなく、共助の大きな柱となる



保健所に期待される機能

- 保健所は公衆衛生の実践の場、または政策のシンクタンクとして存在することが重要で、対象は全ての住民である。
- 公衆衛生的アプローチとして、災害時に外国人がハイリスクとは限らず、ポピュレーションとして考え、共助の力となる住民として、普段から市町村レベルで地域力を高める視点が重要である。
- 地域の医療提供体制を確保する際に、平時から災害時においても外国人を取り残さない配慮が必要である。

誰ひとり取り残さない！

3 すべての人に
健康と福祉を



10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを

